

報 告 書

大工研報第 1886 号

依 頼 者	所 在 地 または住所	大阪府堺市堺区熊野町東2-1-24
	企 業 名 または氏名	株式会社 ユー・イー・エス 様
提出試料名	銀添着活性炭	1試料
依 頼 事 項	抗菌力	

平成 26 年 11 月 5 日付 第 261095 号で依頼のあった件について
提出試料の試験結果を次のとおり報告します。

1. 提出試料

銀添着活性炭（名称は依頼者の申し出による）

1試料

提出された検体を0.4 g 量り取り試料とした。

2. 試験方法

試験は JIS L 1902 を参考にして行った。5mLの普通ブイヨン培地(栄研化学(株))で緑膿菌(*Pseudomonas aeruginosa* NBRC 13275)を27℃で一晩振盪培養した。本培養液を蒸留水で1/20濃度に希釈したニュートリエント培地で10,000倍に希釈した。滅菌した容量30mLの容器に試料(0.4 g)を入れ、調製した菌懸濁液0.2mLを容器中の試料上に接種し、ふたをして27℃に放置した。接種時および18時間後、容器に20mLの洗い出し用生理食塩水を加え、よく攪拌した。0.85%生理食塩水で10倍ずつ4段階希釈し、これらの液1mLの生菌数を測定した。対照(接種時)は試料を入れない容器を用い同様の操作をした。生菌数の測定は衛生試験法・注解(2005) 1. 2. 1. 1細菌一般試験法 3) 菌数測定(1)混釈平板培養法(p. 59)を参考にして行った。ただし、微生物の培養にはSCDLP寒天培地「ダイゴ」(日本製薬(株))を用い、27℃で2日培養した。

(次ページに続く)

平成 26 年 11 月 27 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理 事 長 中 許 昌 美



- ・ニュートリエント培地：肉エキス5.0 g、ペプトン10.0 gを蒸留水 1 Lに溶解し pH6.8±0.2とし高圧蒸気滅菌したもの。
- ・洗い出し用生理食塩水：塩化ナトリウム8.5 g およびポリソルベート80 2.0 g を蒸留水 1 Lに溶解し高圧蒸気滅菌したもの。

3. 試験結果

試験菌名	提出試料名	測 定	生菌数* (cfu/mL)**	洗い出し液 1 mL を採ったSCDLP寒 天培地に対応す るシャーレ上に 検出されたコロ ニー数
緑膿菌	銀添着活性炭	接種18時間後	検出限界以下	0
	-	(対照) 接種時	4.5×10^5	300以上

*) 生菌数は、試料に接種した菌懸濁液中での生菌数濃度に換算した。また、シャーレ上に30以上のコロニーが認められた場合に計測した。この場合検出限界は 3.0×10^3 cfu/mLとなる。

**) cfu：コロニー形成単位

—以 上—